

都市再生整備計画 事後評価シート

入間下藤沢地区

平成23年3月

埼玉県入間市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	入間市	地区名	入間下藤沢地区			面積	81.6 ha				
交付期間	H18～H22	事後評価実施時期	H22	交付対象事業費	2,075百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名											
		基幹事業	【道路】:踏切拡幅事業 【公園】:近隣公園整備事業 【高質空間形成施設】:駅前交通広場整備事業、街路植栽事業、街路灯設置事業 【土地区画整理事業】:雨水調整池設置事業										
	新たに追加した事業	提案事業	【地域創造支援事業】:武蔵藤沢駅橋上駅舎化事業、歩行者専用道路整備事業、防犯灯設置事業 【事業活用調査】:満足度調査										
		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		-		-						
		提案事業	なし		-		-						
	交付期間の変更	当初	H18～H22		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-							
変更		なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値			
	指標1	武蔵藤沢駅の利用者数	人/日	21,561	H17	22,500	H22		23,300	○	あり なし	駅前交通広場の整備や幹線道路網の整備により遠方からのアクセス性が向上したこと、また、区画整理事業の進捗に伴い定住人口が増加したことで目標値が達成された。	H23.6
	指標2	駅へのアクセス時間	分	5	H17	3	H22		3	○	あり なし	自転車歩行者専用道路の整備により、駅東側からのアクセス性が向上したこと及び駅舎の橋上化にともない駅東口が新設されたことにより、目標値が達成された。	
	指標3	武蔵藤沢駅周辺のまちづくりに対する満足度	%	0	H17	55	H22		39.1	△	あり なし ●	街路灯や防犯灯の設置、雨水調整池の設置、区画道路や幹線道路網の整備など、目に見えた変化があったことから、満足度に改善が見られたが、対象地区が都市再生整備計画の対象地区よりも広範囲だったことなどから目標値の達成には至らなかった。	H24.3
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値			
	その他の数値指標1	整備改善状況に対する評価(日常生活の活性化)	%	-	-				86.6			日常生活の活性化については一定の評価が得られ、特に、駅舎の橋上化及び自由通路の設置、駅東口での歩行者専用道路の整備により、駅東西間の移動の円滑化が図られ、街の回遊性が向上したことで、日常生活の活性化に寄与できたものと考えられる。一方、駅前交通広場や近隣公園の整備も行われたが、これらの整備による活性化への影響が十分でなかったことから、全体として一定以上の評価にはつながらなかった。	H23.8
	その他の数値指標2	整備改善状況に対する評価(安全性・防犯性の向上)	%	-	-				82.8			安全性・防犯性の向上については一定の評価が得られた。街路灯や防犯灯の設置による夜間の安全性・防犯性の確保や防火水槽の設置による安全性の確保については、十分な評価が得られたものと考えられる。一方、地下調整池の設置については、都市再生整備計画の計画区域外では依然として浸水などの水害が発生していることから、水害対策については高い評価が得られなかった。	H23.8
	その他の数値指標3	整備改善状況に対する評価(街のバリアフリー化)	%	-	-				97.4			駅前交通広場や駅舎の橋上化にあたっては、高齢者等の移動に配慮した整備を行ったため、バリアフリーによる移動のしやすさについては高い評価が得られた。また、土地区画整理事業の実施に伴い、地区内の道路が新たに整備されたことも、高い評価の獲得につながったものと考えられる。	H23.8
その他の数値指標4	整備改善状況に対する評価(景観の向上)	%	-	-				97.4			道路への街路樹の植樹や駅前交通広場を中心とした電線類の地中化により、街並みや景観の向上については高い評価が得られた。また、土地区画整理事業の実施に伴う、近隣公園や街区公園などの公園の整備・配置や区画道路の整備も街並みや景観の向上に寄与しているものと考えられる。	H23.8	
4)定性的な効果発現状況	街路樹の植栽や公園の整備を契機に、地域住民のボランティアによる清掃活動がおこなわれるようになった。 地区住民による盆踊り大会などのイベントが、新たに整備された近隣公園の多目的広場を活用して定期的に開催されることが期待される。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング		なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス		武蔵藤沢駅周辺まちづくり研究会の開催(役員会9回、総会5回)、同下位委員会(総務委員会、公園・駅広計画委員会、街路計画委員会)の開催(3回)、その他、視察会・講演会の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 区画整理事業の完了に向け、今後も研究会を通じて事業の進捗状況などの発信を行う。また、当該地区におけるまちづくりに対する主体的な提案など、行政との協働体制を維持する。				
	持続的なまちづくり体制の構築		街区公園(藤沢中央公園及びさくら公園)、藤沢中央通り線の植樹帯における清掃活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 藤沢中央公園の清掃活動をしている方には作業用の帽子や軍手などを支給している。その他の地区においても要望があれば、同様の対応を行い、ボランティア活動の補助を行っていく。				

様式2-2 地区の概要

入間下藤沢地区（埼玉県入間市） 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
「香り豊かな緑の文化都市」を目標とし「住んでみたい・住んでよかった」と思われる、安全、安心な自然と調和したまちづくりを進める。	武蔵藤沢駅の利用者数	単位：人/日	21,561	H17	22,500	H22	23,300	H21	
	駅へのアクセス時間	単位：分	5	H17	3	H22	3	H21	
	武蔵藤沢駅周辺のまちづくりに対する満足度	単位：%	0	H17	55	H22	39.1	H21	
	整備改善状況に対する評価（日常生活の活性化）	単位：%					86.6	H21	
	整備改善状況に対する評価（安全性・防犯性の向上）	単位：%					82.8	H21	
目標2 広域的な役割を担う圏央道、国道及び国道バイパスと幹線道路の効果的なネットワークの形成により、鉄道駅への移動時間短縮、公共交通機関の充実により、利便性のよいまちを創造します。	整備改善状況に対する評価（街のバリアフリー化）	単位：%					97.4	H21	
目標3 大震災や風水害などに備えて、都市の防災機能の向上を図り、市民の生命の安全を確保することを第一とした安全なまちを創造します。	整備改善状況に対する評価（景観の向上）	単位：%					97.4	H21	
目標4 高齢者や障害者を始めとする全ての住民が、快適に生活・活動ができるよう、また、心豊かで快適なまちを創造するためバリアフリー化に努めます。									
目標5 本市を特徴づける豊かな緑等の資源が、あらゆる都市施設と調和し、市民や市を訪れる人々がゆとりや安らぎを感じることができるすぐれた景観を有するまちを創造します。									

街路灯設置事業



藤沢中央通り線

駅前交通広場整備事業



武蔵藤沢駅西口交通広場

武蔵藤沢駅橋上駅舎化事業



橋上化された武蔵藤沢駅

武蔵藤沢駅自由通整備事業



武蔵藤沢駅構内の自由通路

街路植栽事業



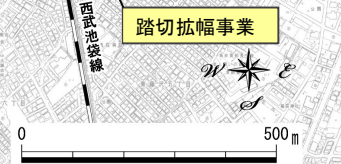
藤沢中央通り線

近隣公園整備事業



藤沢中央公園

雨水調整池設置事業



雨水調整池

歩行者専用道路整備事業



自転車歩行者専用道路

踏切拡幅事業



拡幅された狭山ヶ丘第3号踏切

電線類地中化事業



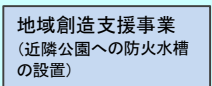
電線類が地中化された駅前交通広場

防犯灯設置事業



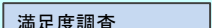
地区内に設置された防犯灯

地域創造支援事業（近隣公園への防火水槽の設置）



防火水槽の設置

満足度調査



満足度調査

凡 例

入間下藤沢地区

土地区画整理事業区

基幹事業

提案事業

関連事業

まちの課題の変化

■商業の活性化と連携の強化
藤沢中央通り線の開通により、大規模小売店舗及び個店の新規出店が見られ、今後も個店の出店が見込まれる状況にある。そのため、今後は商店主の連携による商業活動の活性化により、優良な商店街の形成を図る必要がある。
■地域コミュニティの維持・再編と活性化
土地区画整理事業の実施により、従来から形成されていたコミュニティ（地縁）が事業地区内外等で物理的に分断され、また、新たに流入した住民と従来からの居住者の交流の希薄さも相まって、地域のコミュニティ活動の低下が見受けられる。そのため、武蔵藤沢駅周辺の居住環境の向上に向け、地域コミュニティの活性化が求められる。
■公共交通機関の充実
駅舎の橋上化のほか、各種事業の実施により、武蔵藤沢駅へのアクセス性の向上や駅の利便性の向上が図られたが、高齢者等の交通弱者にとっては、駅までの移動手段としての公共交通の充実も必要である。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

■住環境・景観の維持
植樹帯や公園、道路等の清掃等による景観や住環境・歩行環境の維持を図るため、現在行われているボランティア活動（植樹帯・公園の清掃）に対する積極的な支援のほか、新たなボランティアの参画体制の構築に努める。
■安全性・防犯性の維持
防犯灯の設置や生活道路網の構築等により防犯性・安全性に向上が見られた中、この環境を維持するため、自治会で行っている防犯パトロール等の活動に対し積極的な支援を行う。
■商業・業務基盤の活用と藤沢中央通り線の商業の活性化
商業・業務基盤の活用による商業の活性化に向け、大規模小売店舗や個店の商店主の連携を強化し、販売促進のイベント等を通じて、商店主間の組織化を図る。
■地域コミュニティの活性化
新住民を中心とした自治会への加入促進とともに、公民館事業の積極的な活用等により、自治会活動の活性化を図る。
■公共交通機関の充実
地区内の定住人口の増加や高齢者等の交通弱者への対応を図るため、公共交通機関の充実により公共交通利用環境の向上を図る。